



「自分（たち）でつくるみんなの学校

～日本一美しい学校を目指して～

# 成美っ子

学校だより 令和5年度No.4

## 「好き」という原動力

第1学年担任 中尾 舞香

私は子供の頃に、水泳・ピアノ・書道を習っていました。水泳は小学生まで、ピアノ・書道は高校2年生まで続けていましたが、自分の得意と言えるほどのものにはありませんでした。特に、毎週宿題があるピアノは苦手で、泣きながら練習したことも何度もありました。

私には2歳下の弟がいます。小学生の時から走ることが得意で、中学生になると陸上部に入り、楽しそうに練習をしていました。高校でも、陸上部に入りました。しかし、中学の時とは比べ物にならない練習量や、自分よりも走力が高い同級生がいたことから、毎日の練習が辛くなってきたようでした。家に帰ってくると、「明日の朝練習、絶対行かんから。部活辞めてやる」と言っただけで、次の日に、急いで練習に行くという繰り返しでした。そのような弟でしたが、高校2年生、3年生の時に駅伝の全国大会出場が決まり、喜んでいました。全国の壁はとても高いもので、体格が優れた留学生の選手や、箱根駅伝の名門校に内定が決まっている選手たちが競い合う中、自分の力を出し切って頑張りました。

弟は、進路選択の時に、全国レベルの大会に出場経験の多い、駅伝部のある大学に進学しました。全日本大学駅伝に出場することになり、私は応援に行きました。正月に見た箱根駅伝の名門校がたくさん出場していました。高校駅伝とは違って、大学駅伝は、決められた時間までに中継地点にたどり着けないと、襷を繋ぐことができません。いよいよ、スタートしました。名の知れた名門校は、順調に襷を繋いでいきます。弟の大学は繰り上げスタートになり、襷を繋ぐことはできませんでした。しかし、目の前を走る弟は、今までに見たことのない真剣な顔つきでした。その日まで練習し続けてきた弟の姿と重ね合わされ、胸が熱くなり、無事に怪我無く走り切ってほしいという気持ちになりました。後日、弟に、何度も辞めそうになった陸上をなぜ続けているのかと聞いてみると、「タイムを縮めることができた時の喜び、大会で優勝できた時の喜びもあるけれど、陸上が好きだからかな」と答えました。弟は、社会人になった今も、クラブチームに入り練習を続けています。

私は弟から、「好き」という気持ちを原動力にして、毎日努力し続けることの大切さを教えてもらったような気がします。私自身も弟から刺激を受けて、高校までしていたダンスを、社会人になってから再開して習い続けています。私が日々接している成美っ子たちも、たくさんの可能性に満ち溢れています。だからこそ、何か一つでも、夢中になれる好きなことを見付けられる子供を育てていきたいと思います。



〈全日本大学駅伝〉